

2018年度スケジュール(予定)

12月23日(日) 家康公生誕祭	10月27日(土) 中村区民祭り	9月16日(日) 一豊祭り	7月21日(土) 中川金魚まつり	6月10日(日) 桶狭間古戦場祭	4月21日(土) 於大まつり	3月11日(日) 大高城兵糧入れ ウォーキング
------------------	------------------	---------------	------------------	------------------	----------------	----------------------------



今年もやります！
森松武将隊！

2018年も7回の出陣を予定しておりますので
参加されたい方は是非ご一緒に！

森松武将隊 副隊長 加藤雅昭からのご案内です。

『電子書籍とデジタル化』

森 直樹 (代表取締役社長)



私のタブレットにアマゾンの電子ブックアプリ、「Kindle」が入っています。

出張時や移動が長い時はタブレットを持っていき、読書します。その昔は、海外出張の際に何冊も本をカバンに詰めて出ていましたが、今は文庫本2冊分の重さで幾らでも電子書籍を持ち歩く事が出来ますし、画面の小さいことを気にしなければスマホでもアプリを入れれば同様の事が出来ます。電子書籍に関しては、デジタルとアナログの違いはほとんど無いというのが私の結論です。むしろ機能として気になる箇所は蛍光ペンを入れたり、メモを書き入れたりすることが可能で、それを後で検索できるといったデジタルならではの利点もあります。付箋を本に付けるのと同じ感覚です。

ここ数年で紙の本を買う機会は格段に減りましたが、紙の本が無くなってしまおうというわけではありません。紙で(本で)残しておきたい本と、一度読めば十分という本で扱いが変わってくるでしょう。私達の扱う商品自体はデジタル化されるものはありませんが、間接的にデジタル化の影響を受けることは十分にあります。例えば、これまではモノのノベルティだったのがスマホの壁紙だったりLINEのスタンプに置き換わったりすることは実際に起こっています。

また、デジタル化、つまりペーパーレス化によってノート、証書や通帳、といった紙の媒体がデジタルに置き換えられていくこともあり、それに伴って塩ビやPPのカバー類が減る、ということも有るでしょう。何が無くなり、残るかを予測するのは簡単なことではないと思いますが、大切なのは現状ある仕事はいつまでも続くものではないという認識を忘れないこと、常に新たな顧客と情報を獲得していくことを続けていくことです。

eスポーツ

吉岡 孝記 (営業部)



eスポーツってご存知ですか。私は、初めて聞いたeスポーツでどんなスポーツかと思いちよつと調べてみました。eスポーツはエレクトロニック・スポーツと言うそうで複数のプレイヤーで対戦されるコンピュータゲーム(ビデオゲーム)をeスポーツ・競技として捉える際の名称だそうです。eスポーツと言えば運動の事だと思っていきましたが、英語の意味は「楽しむ・競技」という意味があり欧米ではチェスやビリヤードもeスポーツとして認識されているそうです。eスポーツは、高額な賞金のかけられた世界的な規模の大会などアマチュアから年収1億円を超えるプロゲーマーも存在し、世界の競技人口は5500万人以上もいるそうでびっくりです。ゲームをしてお金がもらえるなんて羨ましい限りです。

私はゲームが下手でほとんどやりませんが、昔ニンテンドーのウィーが出たときに子供とよくやりましたが、ほとんど子供に勝てませんでした。勝てたのはボーリングとゴルフぐらいでしたが、ゴルフのゲームでドライバーを打った時見事にスライスしゲームでもスライスするかと悲しくなりましたが、よくできているなと感心しました。また、平昌オリンピック開会式の2日前に、史上初となる五輪公認のeスポーツ大会が開催されたそうで、人気ゲーム「スタークラフト2」を競技種目として開催されたこの大会はeスポーツの歴史の転換期であると同時に、五輪種目への採用に向けた新たな一歩になったそうで、ひよつとすると近い将来五輪の正式種目になる様な時代が来るかもしれせん。少し違和感があります。

DIYと感謝

安井 浩二 (企画営業部)



先日、お風呂の水栓を交換しました。昨年より水もれしだったのでまずは、パッキンを交換。そこそこの対策できたものの完璧ではなかった。水道110番みたいな水もれ業者はたくさんあるが、支払うのは、ちよつともつたいない。できるだけ自分でやってみようと、原因を探すためTOTOのホームページにて調べてみる。すでに廃盤になっていたが、水栓の分解図と各部品の購入リストも出てきた。その図面から止水バブルユニットという部品が原因だろうと思い、水側、湯側と二つを購入。(合わせても¥1000程度) 交換した結果、水もれは対策できました。(ちよつと儲けた気分) その後、順調に使っていたが、今度はシャワーを使うとスパウト(蛇口)からもお湯が出て切り替がでなくなる。分解図で調べたら自在スパウトユニットという部品の様子。これは¥5000以上する。しかし、確実に直る保証はない。一般的にお風呂の水栓は10~15年の交換が目安らしく、すでに25年近く使っているので買い替えを検討。楽天で検索したら同等品で¥15000弱と案外安い。それを購入し自分で交換を考えてみたが我が家のタイプは浴槽に取り付けてある台付タイプ。壁付けタイプと異なり交換が困難な様子。実際に浴槽の側面のフタを取り、覗いてみると脱着に専用レンチが必要。うん。自分で交換を考えてみたが、給水管を破損させたり、締付が悪く漏水など素人による設置トラブルも多いらしい。毎日使用するものであり、失敗した場合のリスクは高い。結果、3年保証付の施工を依頼。価格は工事費込みで¥26050。工事は無事終了。取り外された古い水栓を見て、思わず長い間お疲れ様と感謝の気持ちになる。普段、生活できているのも、このような住宅設備のお陰であり物も家族の一員かな?築25年の我が家。この先も色々故障が出てくるでしょう。買い換えるのは簡単ですが、なるべく自力で直し大切に使うてゆきたいと思いました。

八丁味噌

西垣 浩司（製造部）



久しぶりに妻の実家に家族で帰った際、息子と二人でぶらりと出かけた時に、伝統の八丁味噌をつくり続けている「まるや八丁味噌」を見つけ、蔵の中を見学ができるようなので二人で見学をすることにしました。大豆麴を巨大な木桶に仕込み、重石を積み上げて味噌を作っています。石積みは熟年の職人技であり、製造所内には味噌の良い香りが漂い、ゆったりと時間が流れているような気がします。歳月を重ねた味噌桶の存在感や天に向って積み上げられた重石の力強さなど、八丁味噌の味噌蔵ならではの風景が肌で感じられました。八丁味噌の試食もできるので、味の違いも分かるはず！岡崎では良質な米と清らかな水の恵みで、酒造りも盛んに行われ、「丸石醸造」、「柴田酒造場」が地酒として愛されています。

どちらの酒蔵も蔵の見学ができ、酒造りの行程を見ることができそうです。東海道を行き交う往時の人々も味わったかもしれない酒が楽しめますよ！健康食として大きく注目を集めている「えごまオイル」、それを日本で初めて商品化したのが岡崎にある「大田油脂」で、油をしぼったり、食べ比べができる体験型工場見学も受け付けている。そうなので、次回は家族で見学ができたらいいなと思っています。



年末ライブ

柳原 瞬（裁断部）

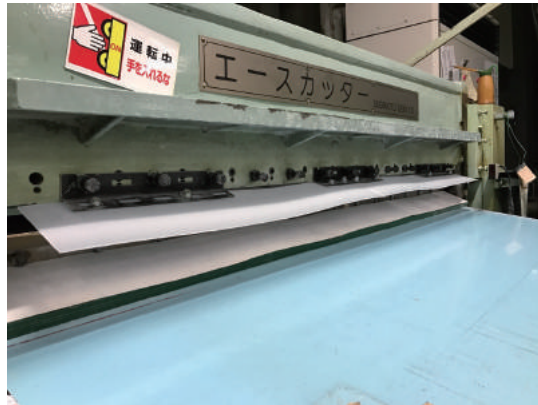


昨年の年末、12月30日に、〆のライブを観に行ってきました。近年は二年に一度のペースぐらいでしか〆、〆はライブをやっていないのですが、毎回のように行く事が義務のような使命のようなそんな感じになっています。地方まで行くほど大熱狂的！とまではいいませんが、名古屋で開催している時は毎回応募しています。そんなペースでしかやっていたいなかったライブを最近のニュースで今年の9月頃に豊田スタジアムでスリーデイズ開催する事を発表しました。また観れる！と発表を聞いた瞬間思い嬉しくなりました。とともに毎年やってくれればなあと感じながらも、あの年齢で地位も名誉もありモチベーションを保っている二人はやっぱり尊敬でしかないなあ。去年の年末のライブの時には、ボーカルの稲葉さんが前日のライブの際、喉の不調が原因で4曲だけでライブが終わっていたので、開催するか不安視される中、ライブを行うとの発表があったので一安心。ほんの少しだけ喉が不調な感じも見受けられましたが、いつもと変わらない素晴らしいパフォーマンスを観ることができました。ドーム、スタジアムだけでなく、ガイシホールほどの会場の規模でやってくれないかなあとも思ったり。ライブの当選確率も中々に低いので当選するかどうかもわかりませんが、9月にまたぜひ見に行きたいと思っています。木土日と開催されますが、木曜日が当たったら会社はどうしようかな（笑）



改善委員

裁断場のオートカッターはセンサーをつけて安全対策をしましたが正面から見た際にむき出しになっていたため板を取り付け、刃が正面から見えないようにし手も入りやすくしました。



改善総評

2017年9月に1回目の改善をし、今回2回目の改善をしたことでさらに安全になりました。一度改善をしたから終わりではなく常に安全と効率を考えて改善していくことは大変いいと思います。今後も皆で改善に取り組んでいきましょう。

森松株式会社のオリジナルキャラクター
守り隊の『マモーリン』誕生しました！



このたびLINEスタンプデビュー☆
全40種類100円で販売しています！
いまずくクリックしてね！

森松株式会社 社内報

No: 393 平成30年 2月 27日

編集者

大石耕平 小坂美香 間部将大
近藤結礼 加藤俊輔 則武恵秀

週末の土いじり

金子 佐知子（東京オフィス）

皆さんはお庭やプランターで何か植物を育てていますか？

私は学生時代の担任に誘われて、5〜6年前から湘南・大磯の畑にほぼ毎週末通っています。先生が知人から借りた約150坪の畑で無農薬のお野菜を育てているので、私はその農作業を手伝ったり、自分の育てたいものを一緒に作っています。

春には絹さややスナップエンドウなどの豆類。菜花や春菊、サニーレタスといった葉物。アスパラガスもたくさん出てきます。夏は定番のナスやピーマン、トマト、そして玉ねぎ、じゃがいも、かぼちやにモロヘイヤ、落花生などもチャレンジします。秋はなんといってもサツマイモですね。冬はネギや大根、ニンニクも育てています。玉ねぎや大根は種子を撒くところから始めるのですが、お花の種しか見たことのない私には驚きの連続です。

またこの畑を通じて様々なお仲間との出会いがうまれました。会社員、同窓の方、料理人、お近くの農家の方々。普通なら出会えなかった人々との交流は、知識も話題も人生をも豊かにしてくれます。畑のメンバーでもある私の息子は、採れたてのお野菜を使って目の前でお昼ご飯（青空レストラン）を作ってくれる料理人さんにほれ込み、お店の近くに引越して一人暮らしを始めたほどです。どこかで誰かとおつながっていくことで、皆さんに見守られて生活しています。15歳で出会った担任と、まさか親子2代に渡っておつきあいが続くなんて考えてもいませんでした。

店頭には一年を通して外国産やハウスで育てたお野菜が色とりどりに並んでいます。旬の季節に採れたお野菜ほど味が濃厚で美味しいものはありません。これからも週末の土いじりを続けながら、笑って楽しく過ごしていきたいと考えています。

